

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473600540
法人名	社会福祉法人 豊笑会
事業所名	弥生台グループホーム
訪問調査日	平成24年10月24日
評価確定日	平成25年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600540	事業の開始年月日	平成15年3月1日	
		指定年月日	平成15年3月1日	
法人名	社会福祉法人 豊笑会			
事業所名	弥生台グループホーム			
所在地	(〒245-0008) 横浜市泉区弥生台55-62			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの礎となるケアプランを、全職員が認知症の為のケアマネジメントセンター方式を理解し習得し、全員参加のケアカンファレンスを行い、皆で作りに上げています。全職員がユニットリーダーを支え、自主的にグループホームの運営に携わり、「ご利用者に喜んでもらうには」「ご利用者により良いケアをするには」という気持ちを持ち、支援をさせていただいています。そこには、開所当初から勤務している職員が多数定着し、チームワークの良さと長年のケアの構築があり、事業所の設備、環境を活かしながら、ご利用者は職員と共に出来ることは行い、生活していただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成24年10月24日	評価機関 評価決定日	平成25年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、社会福祉法人 豊笑会である。この法人を、平成14年にグループホームの設立の為に立ち上げ、翌15年にグループホームの理想像としてこのホームが開所された。この法人は、初期から最終までの介護を担う「サイクル介護の提供」をコンセプトとし、在宅介護支援・訪問介護・デイサービス・小規模多機能・グループホーム(3事業所)・特別養護老人ホーム(2事業所)を展開し、サイクル介護のどの段階でもサービスが提供できる体制を作り上げている。このホームは、相鉄線の弥生台駅から徒歩7分の住宅地の奥まった所にあり、隣に他法人の老健があり、果樹園もある静かな場所にある。このホームは、平屋建て2棟による2ユニットで構成され、広いエントランスを持ち、居室・リビング・台所・廊下、全てが広く余裕のある作りになっている。庭は、犬とアヒルが飼われている。広い野菜畑もあり、本格的な野菜作りが、利用者・ご家族の楽しみになっている。

②法人の「豊かで穏やかなほほえみの介護」から始まる4項目の理念は、各ユニットに掲示されている。開所以来勤務されている職員が多数定着して、チームワークの良さと長年のケアの蓄積を活かした介護が行われている。モニタリングについては、「利用者喜んでもらうには」「利用者により良いケアをするには」との気持ちから、センター方式のC-1-2とE表を使い3カ月毎に担当を代え作成し直しては、利用者の真の姿と気持ちの把握に努め、ケアに活かし、支援している。

③理念の中にある「地域との関係を大切に」は、着実に実現されている。地元自治会には、加入しており、自治会の行事の夏祭りや運動会にも参加し、運動会では、利用者向けのプログラムも用意して頂いている。同じ自治会内にある他法人のグループホームとは、このホームの会議室をお貸して運営推進会議を同日に開く等協調している。ボランティアのご協力を得て長年、毎月2回の保育園との交流会は続いている。他のボランティアとしてハーモニカ・カラオケ・マジック・子供ソーラン節・フラダンス等、スケジュールの調整に困るほどの盛況ぶりである。今後の課題として、管理者は、地域の方々がこのホームに気軽にきて頂ける機会を設ける事としている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	弥生台グループホーム
ユニット名	清泉館

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、ご利用者が安心、安全な生活を安定した日々として穏やかに過ごされるよう、管理者と職員ともに切磋琢磨しながら共有し、実践している。	理念に基づいたモットー「笑顔豊かにいきいき」と掲げ、利用者が安心・安全な生活を日々穏やかに過ごされるよう管理者と職員が共通認識を持ち、実践している。職員会議の席上、事例を挙げ、理念に沿ったケアの在り方等話し合い、職員間の理念の共有化に繋げている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入させていただき、自治会の夏祭りや運動会などの行事に参加させていただいたり、近隣の保育園と毎月、定期的な交流を図っている。	自治会に加入し、自治会の行事である夏祭りや運動会などに参加させて頂いている。運動会では、同自治会内の3事業所と一緒に参加し、利用者用のパン食い競争のプログラムまで用意して頂いている。近隣の保育園との毎月2回の定期的な交流会は、長年続いている。ボランティアの方々により多種多様な踊り・歌・ハーモニカ・紙芝居・マジック等を披露頂き、利用者の楽しみになっている	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々に認知症の方を理解していただけるように、見学や利用者の方と交流できる機会を毎月1回設けている。近隣の中学校の福祉体験学習や県主催の認知症介護実践者研修の研修生、今年度より市内の看護学校の看護学生の実習を受け入れている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3カ月毎に運営推進会議を開催し、地域住民の方々や、ご家族、行政職員、地域包括支援センター職員に参加して頂き、より良いサービスを行えるよう意見交換している。	3カ月毎にこのホームの会議室に、同自治会内の他のグループホームもお誘いし、一部は合同で運営推進会議を開催している。自治会長を含む地域の方々、ご家族、行政職員、地域包括職員に参加頂き、より良いサービスに向けての意見交換が行われている。ホームの行事に地域住民の更なる参加を促す方策等も検討されている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	泉区高齢者支援課の職員や地域包括支援センターの職員と連絡を取り合いながら協力関係を築いている。	泉区高齢者支援課の職員や地域包括支援センターの職員と連絡を取り合いながら協力関係を築いている。区役所よりの研修の案内や泉区・戸塚区ブロックのグループホーム連絡会の会議や管理者・職員対象の研修会にも必要なものには、参加している	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やケアカンファレンス時に、ケアの方法が、身体拘束に繋がるかを検討している。各ユニットの施錠は極力しないように努め、中庭や裏庭には自由に出入りできるようにしている。	職員会議やケアカンファレンス時に本人の行動を制限することが拘束になることを伝え、どのようなケアの方法が、身体拘束に繋がるかを具体例等挙げて検討している。各ユニットの施錠は、極力しないように努め、中庭や裏庭には自由に出入りできるようにしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習会に参加し、日常のケアが、虐待に結びつくことがないように職員会議等で話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護に関する研修会に参加している。ご家族からの相談には、その都度対応し、関係機関に繋げていくよう働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族が不満や不安なことを気軽に話しかけられるように、管理者や職員で雰囲気や機会を作るようにしている。意見や要望があった場合はその都度、職員間で検討するようにしている。	利用者やご家族が不満や不安なことを気軽に話しかけられる雰囲気作りに努めている。その為、6月のジャガイモ堀と畑の整備、12月の大掃除等ご家族に食事を提供するだけでなく仕事に参加頂き、親しい関係構築に繋げている。意見や要望があった場合には職員間で検討し対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し、意見や提案を聞いている。また管理者は毎月のユニットごとの職員会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。	理事長は、各事業所の管理者を招集した会議や年3回の法人内3グループホームの管理者とユニットリーダーを集めた連絡会で意見や提案を聞いている。ホームの管理者は、毎月のユニット会議にて職員の意見を聞いている。定期的な個人面談は行っていないが、日頃からいつでも相談を受ける体制はできている。	今後の継続
12					
		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行っている。資格取得支援制度を設けたり、必要な外部研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、グループホーム間での勉強会や現場研修に参加し、サービスの向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や自宅訪問時にご本人の話をよく聞き、実際の活動中の様子を見学して頂いたり、見学が難しいご利用者にはパンフレット等で事務所の説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供者から藩士を聞いたり、情報収集を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ないことを説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援共に考え、アドバイスするよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事や作業をして、ご利用者から教えて頂ける場面もあり、日常生活を共に過ごすことで、お互い支え合いの関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な面会をお願いし、ご本人との関係を持って頂いている。行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方が訪ねて来やすい雰囲気を作り、一緒に外出して頂いたり、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。	ご本人の馴染みの方が訪ねて来やすい雰囲気を作り、一緒に外出して頂いたり、電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。入居前の在宅時代のヘルパーさんが定期的に来訪頂くご利用者もいる。ご家族対応で、外出したり日帰りで実家に帰る利用者もいる。昔住んでいた地域の敬老会に参加する方もいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係を把握し、トラブルが起きないように食堂の席や作業グループを決めたりしている。他利用者との関わりが難しい場合は、適時、職員が個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人やご家族の要望があれば、ご相談等に応じ、これまでに築きあげた関係を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、ご利用者との信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、ご利用者一人一人の希望や意向が把握できるように努めている。ご本人の確認が困難な場合は、家族の意見を参考に検討している。	職員は、利用者との信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者の意向や思いを把握し、センタ方式のC-1-2表（姿と気持ちシート）に書き込み、介護に反映させている。ご本人より意向の確認が困難な場合は、入所時の面接シートを参考にしたり、ご家族の意見を聴く等、意向を汲み取るようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居される際、今までの暮らし方や生活環境が変わって戸惑わないように、家族や関係機関から情報を収集し、アセスメントシートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で職員が気付いた事は、各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また毎日の申し送りや毎月の職員会議の中で、ご利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に趣味で行っていたことや生活習慣をご本人、ご家族から聞き取り、介護計画に反映している。計画の見直しが必要な場合は、毎月のカンファレンスで検討し、全職員が介護計画作成に関わっている。	入居前に趣味で行っていた事や生活習慣・生活歴等を本人・ご家族から聞き取り、面接シート作成し、介護計画に反映させている。毎月のケアカンファレンスで、毎月利用者3人の評価を職員全員で行い、利用者のモニタリングは3カ月に一度行われる仕組みになっている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者毎に毎日の生活の様子、状況を観察し記録している。状況に合わせた対応は、毎日の申し送りの中で検討し、支援方法が変更になった場合は、全職員に周知できるように申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要なことがあれば、総合的に支援出来る体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会の会長、民生委員、ボランティアの方々の来訪で安全で豊かな暮らしをサポートして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診しているご利用者もいるが、長時間の通院に負担があったり、ご家族での受診対応が難しい場合は、近くの提携病院に定期的に通院している。	ご家族、本人の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診されている方もいる。隣の老健の附属の病院は、通院が簡単な事もあり、提携病院として、ほとんどの方が、かかりつけ医として定期的に通院している。歯科は、必要に応じて、訪問歯科に往診を依頼している。また、協力医療機関の看護師が相談に乗り、個々に支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員の配置が無い為、協力医療機関の看護師が相談に乗って頂いたりして、個人ごとに支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に、医師や看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に退院に向けた話し合いの場に立ち会っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族と可能であればご本人も交え、重度化した場合や終末期のあり方を事業所で出来ることを説明したうえで、方針の共有をしている。重度化し対応が困難な場合は、法人内外の関係機関で支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。	この法人は「サイクル介護」のコンセプトを基本としており、入居時にご家族・本人に重度化した場合や終末期のあり方や事業所のできる事を説明した上で、方針を共有している。重度化し対応が困難になった場合は、法人内外の関係機関での支援を考え、ご家族と移動の話し合いをすることになる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の救急対応、連絡方法等のマニュアルを作って、全職員に周知し、確認を取っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での防災訓練以外に消防署主催の防災講習会や自治会での防災訓練にも参加し、万一の場合に備えている。	年2回の避難訓練は、夜間想定訓練も含めて行われる。1回は、消防署に指導を受けながら行う。自治会長・民生委員等地域の方にも参加頂いている。消防署主催の防災講習会や自治会での防災訓練にも、参加し、万一の場合に備えている。震災後自家発電機を設置し、時折、試運転も行い、いざという時に使えるようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の誇りやプライバシーを損ねる事が無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。	ご本人の誇りやプライバシーを損ねる事がない様に、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動（早口や強めの語調等）があった場合は、ユニットリーダーが個別に指導をしている。特に入浴と排泄の際は、相性の良い職員を配置する等の細かな配慮もしている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が常々思っていることや希望を言い出しやすいような雰囲気作りや、自分で物事を決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、ご本人の状態に合わせて参加していただいたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、ご本人のペースで1日を過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣はご本人に用意していただいたり、選びやすいように収納している。訪問理美容を利用したり、行きつけのお店があれば、ご家族に対応していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物や苦手な食べ物を把握し、臨機応変に対応している。調理や配膳・下膳、片付けは個々の能力に応じて、職員と共に行っている。	メニューと食材の調達は、業者を使っているが、利用者の好物や苦手な食べ物を把握し、食事形態や盛り付けを工夫している。調理や片付けは、能力に応じて利用者を手伝って頂いている。誕生日会は、手作りのケーキやお弁当を手配し、毎月、ボランティアによる演芸の出し物（フラダンス・ウクレレ・マジックショー・子供ソーラン節等）が、企画され、利用者の楽しみになっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回記録をしている。献立は配食会社の栄養士によりカロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせ、職員が工夫して調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを行っている。必要に応じて所金が介助している。就寝前は、入れ歯洗浄剤を使用し、清潔を維持している。必要があれば訪問歯科を依頼し、口腔ケアの指導をしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしないご利用者もトイレ誘導し、便座に座っていただき排泄を促したり、できる限りおむつを使用しないで済むように個別にトイレ誘導の回数を考え、支援している。	トイレは、1ユニットに3か所あり、すべて車椅子対応の広いトイレとなっていてトイレ介助もしやすい広さがある。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がハッキリしない利用者もこまめにトイレ誘導し、便座に座って頂き排泄を促したり、出来る限りオムツを使用しない支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合った便秘予防に効くと言われる食材を用意し、運動の参加を呼び掛け便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、ご本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。入浴の拒否が見られるご利用者の方の対応も、タイミングや声かけ等を工夫し、支援している。	入浴日は、2ユニットで交互に隔日としている。入浴日には、全員が入浴される事を基本としている。入浴の時間帯は、午後に行っているが、ご本人の状態や希望により変更することもある。浴室・浴槽が広く十分2人一緒に入浴できるので、気のあった利用者同士で入浴される場合もある。入浴拒否が見られる利用者の方の対応もタイミングや声かけ等を工夫して支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠チェック表を記録し、昼間の時間と夜間の時間とで、生活の過ごし方にメリハリをつけ、休息と睡眠の時間を取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり処方された薬の用法、用量、副作用などの載った処方箋を、個人ファイルにして職員が目が届く場所に保管している。処方内容が変わった場合は、服薬後の状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣向や力量に合わせて、掃除や調理などの家事全般を役割分担し、お手伝いしていただいたり、個別に書道や園芸などの趣味が実施できるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	犬の散歩に交代で行ったり、中庭や裏庭に安全を確認しながら出入りできるように支援している。また個別の外出は家族に協力していただき、買い物や外食に行かれている。	お風呂のない日は、そのユニットが、犬の散歩の当番となり、利用者が交代で犬の散歩に行く。中庭や裏庭には、安全を確認して出入りし、気分転換を図っている。個別の外出は、ご家族の協力を得て買い物や外食に出かけられている。長年続いている保育園との毎月2回の交流会も外出の機会となっている。遠出の遠足も同グループの特養の大型車を借り2ユニット一緒に出かけている。(10月30日江の島水族館の予定)	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時や、外出行事の時には、一人ひとりお金を持っていただき、好みの品物が買えるように支援している。ある程度、自己管理が出来る方には、お小遣い程度を自己管理しているご利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけたり、手紙を出したり出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング、食堂、トイレ、浴室、台所等の共用部分は十分な広さがあり、ゆったりと過ごしていただいている。雑音、光、温度、設営物等に配慮し、季節感を取り入れながら居心地の良い生活が過ごせるようにしている。	玄関・廊下・リビング・台所・トイレ・浴室・台所等の共用部分は、どこをとっても十分な広さがあり、ゆったり過ごして頂いている。雑音・光・温度・設営物等に配慮し、季節感を取り入れながら居心地の良い生活過ごせるようにしている。広いリビングを利用して、ボランティアによるハーモニカ・紙芝居・カラオケ・習字等多様なレクが楽しめている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間の中にも人目から隠れる場所を作り、一人になれる場所を設けたり、ソファで気の合った利用者同士で座れたり工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人や家族で、居室を今まで使っていた馴染みの家具や寝具を持ち込んでいただいたり、家族の写真などご本人の愛着のある物を置いたり、安心して生活できるように工夫している。	居室は、広く洗面台が設置されており、利用者の中には、居室で歯磨きしている方も居る。入居時に本人やご家族で、馴染みの家具や寝具を持ち込んで頂いたり、ご家族の写真や仏壇等愛着のあるものを置いたりして、安心して生活出来るように工夫している。ご家族の面会時には、衣替えや衣類整理などして頂いている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手摺を設け、一人ひとりが安全で自立した日常生活が送れるように工夫している。		

事業所名	弥生台グループホーム
ユニット名	正泉館

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につく場所に掲げ、スタッフで共有し、実践するよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、ホームの催しには、参加していただけるよう呼びかけを行い、交流を計っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、月に一度は施設を開放し、地域の方々の来訪を呼びかけ、認知症の方とスタッフとの関わりを見ていただいたりと参考にしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催をし、活発な意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	泉区高齢者支援課の方々、地域福祉職員と連絡を取り合いながら協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同、身体拘束のないケアを心掛け、自由に行き来できるよう可能な限り施錠をせず（両館の錠）注意を払いながら空間作りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会への参加や、入浴時の身体観察等、スタッフ同士は、十分に行動に注意し合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は学ぶ機会を持ち、理解を深められるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等、ご家族とは密に連絡を取り、意見や要望を聞き入れる機会を設け、可能な限り運営に反映させる努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し、意見や提案を聞いている。また管理者は毎月のユニットごとの職員会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行っている。資格取得支援制度を設けたり、必要な外部研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、グループホーム間での勉強会や現場研修に参加し、サービスの向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報提供をもとに、入居後は様子観察、コミュニケーションをじっくりと行い、安心、安全の確保に努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際には、十分に話しをする時間を設け、信頼関係に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと話しをしながら、いろいろな角度からの支援内容を検討し努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係となり、出来ることはしていただきながら、お互いを支え合う関係となれるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも信頼関係を築きながら、共に、本人を支えられるよう役割分担をして（受診等）努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や電話ができるような雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう常に配慮し、より良い関係が築けるよう利用者の中に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも連絡できて相談しやすい雰囲気作りに努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の立場に立ち、自由に暮らしていただけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックベースを把握し、生活環境の変化を最小限におさえるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェック、睡眠状態、顔色等、健康観察を行い、また何気ない会話をするうえで、一人ひとりの心身状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにより、活発な意見交換を行い、本人が望まれるであろう現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良い支援ができるよう、情報の共有をし利用者の変化にも迅速に対応できるよう口頭での申し送りも重要としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の様子を日々観察し、その状態に合ったサービス内容をその都度変更し、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人のバックベースをもとに、馴染みの人や環境の中で生活できるよう支援している。また、ボランティア、保育園との交流で楽しみを持った生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連携をとり、速やかに適切な処置を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない為、常に健康管理に注意し、急変があれば速やかに受診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会を行い、病院と家族との連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族と可能であればご本人も交え、重度化した場合や終末期のあり方を事業所で出来ることを説明したうえで、方針の共有をしている。重度化し対応が困難な場合は、法人内外の関係機関で支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応等、日々確認し合い、観察力、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、地域との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷付けぬよう、常に言葉掛けには注意し、行動している。特に、排泄、入浴介助には細心の注意を払いお手伝いをさせていただいている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴対応に心掛け、本人の思いを汲取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと、ゆったりとした空間の中でご本人のペースで生活していただけるよう、状態観察を行いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床からお手伝いをさせていただき、本人の希望に合ったおしゃれ、身だしなみの支援をさせていただいている。また、定期的に訪問美容を利用して頂けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力に合ったお手伝いをさせていただいている。 食事への関心、意欲がでるよう支援させていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェックを行い状態の把握に努め、快適に食事を摂っていただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアのお手伝いをし、状態の把握をしている。義歯のある方は、毎日洗浄し清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定期的な誘導を行い、トイレでの排泄につながるよう努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い、毎身体操を行い、出来るだけ身体を動かしていただくよう促し、努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決められているが、出来るだけ本人の希望に添った支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、一人ひとりの状態を観察し、その時に合った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは誤薬が無いよう何重ものチェックを行ない健康管理に努めている。薬の目的を理解し、症状の変化にもすぐ対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを通じて、一人ひとりの楽しみ事を把握しており、スタッフの声掛けで日常的に活気ある生活の支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、可能な限り戸外に出掛けられるよう家族と協力しながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不定期的だが買い物をする場を設け、お好きな物を買ったりと、希望があれば、それに向けて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に合った支援方法を検討し、可能な限りの支援をしている。本人の希望があれば、電話のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や絵を飾ったり、温度管理をこまめにして、居心地の良い環境、空間作りに努力している。カレンダー、日程表を活用。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室を出入りして独りで過ごす時間を大切にしている。 共有空間には、ゆったりと座れるソファでくつろいでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望と家族との相談で、安心して居心地良い部屋となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場は一目で分かるよう絵付きで表示されており、廊下は手すりが付いて安全に歩行できるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

弥生台グループホーム

作成日

平成25年2月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会の行事参加、地域のボランティアの受け入れ等である程度、地域交流は図れているが、現状を維持しつつ、新たな取り組みを増やしていく。	地域住民の方が、気軽に訪問できるような機会を設ける。	事業所で行われる行事やボランティアの活動を地域住民の方に自治会の回覧等で広報する。	1年間
2	35	災害時の対策で、非常用の飲料水、食料の充足や建物、設備関係の未整備箇所の点検。	非常災害時の対策で、不十分な点を見直し、整備をする。	備蓄されている飲料水、食料の使用期限を確認し、補充する。設置されている家具等の安全対策の整備をする。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。